

平成21年8月1日発行

若狭熊川宿まちづくり特別委員会

福井県三方上中郡若狭町熊川

TEL/FAX (0770) 62-0330

熊川宿ホームページ <http://kumagawa-juku.com>

鯖街道 熊川宿



中条橋付近を遊行する山車（平成21年5月3日撮影）

白石神社の祭礼 賑やかに

穏やかな天候のもと、白石神社の祭礼が行われました。午前中、拝殿にて厳かに神事が執り行われ、併せて熊川自衛消防ポンプ積載車の安全祈願が行われました。

本陣周辺には、女性の会による大判焼きや若鮎による輪投げのゲームコーナーが設けられ、子どもたちの人気を集めていました。午後から、いよいよ山車の遊行が始まり、

今年も大杉を含む熊川区全域を遊行しました。祭りでの遊行は今年で七年目となり、すっかり熊川の祭りの定番となっています。地元住民に混じって里帰りの親子や観光客が曳き



手となって、お囃子の青年や子どもたちを乗せて、「わっしょいーわっしょいー」の掛け声とともに曳かれる様は勇壮そのものです。山車の後ろに掛けられた色鮮やかな見送り幕が、清々しい新緑に映えています。

目次

- 白石神社の祭礼賑やかに…………… 1
- 寄稿文・防災まちづくり計画…………… 2
- 寄稿文・事業計画…………… 3
- 熊川宿防災まちづくりシンポジウム…………… 4
- 日本風景街道事業報告…………… 5
- 活動報告・名所紹介…………… 6

誰もが安全で安心して暮らせる町に

伝建地区若狭町熊川宿の防災まちづくり計画策定委員会

副委員長 岩本 実

私は、ふるさと熊川へ帰郷する1年前の平成7年1月17日の明け方に発生した阪神淡路大震災を大阪府茨木市で経験しました。寝室には家族4人ダンスに囲まれて寝ておりましたので、地震の瞬間暗闇のなか頭の中はパニックになっていました。ダンスが倒れてきたら大変と両手を大きく広げました。しかし、後から考えたら大きく広げた方向にダンスはありませんでした。(笑)

その瞬間は、大型ダンブが居眠り運転で突っ込んできたのかと思いましたが、電気も止まり暖房も使えないので車に避難し、エンジンをつけて寒さをしのぎながら、ラジオの情報から大きな地震が発生したことを知りました。少し経ってから、「ガス臭い。みんなガスの元栓締めてやあー!!」と大きな声が出て、私も慌てて家のガス栓を締めに戻りました。災害発生時にこういった住民の一声が、二次災害を未然に防ぐのだなと感じました。

さて、今年で重伝建選定13年目を迎える熊川宿に、文化庁をはじめ関係機関のご指導により「伝建地区若狭町熊川宿の防災まちづくり計画」を策定させていただくことになりました。そして、年々この美しい町並みを見学し、全国各地から大勢の観

光客が訪れるようになり、先人より受け継いだ熊川宿を後世に引継ぎ、災害から守っていかねければと言いう思いも強くなってきました。

今回の防災計画策定にあたり、第1回目のワークショップで「災害とはなにか、防災とは何か」との勉強からスタートしていききましたが、その中で「自助・共助・公助」という言葉が印象に残りました。特に「自助」について、災害が発生した時はまず自分が助かなければ、家族や近所の人を助けることも出来ないことを学びました。また、防災アンケートや5回開催したワークショップでも実際に町を歩き、今まで気付かなかった防災に関する問題箇所や新たな発見もあり、住民同士が防災について話をする中で、防災意識や不安に思っている内容がそれぞれ異なり、緊急避難場所などの情報についての課題も明らかになりました。そして、大きな地震では町の職員や警察官、消防隊も被災し救急車も直ぐに駆けつけることが出来ないことが想定されます。いざと言う時に地域住民が助け合い、一人ひとりが力を合せ安全で安心して暮らせる町になれば幸いです。

昨年の5月から1年余りを掛けて、ここに出来上がった「伝建地区若狭

町熊川宿の防災まちづくり計画」を契機として、忘れかけていた防災意識を高めていかなければと思っております。また、防災計画を進めてゆく過程で、自主防災組織の必要性を感じ、熊川区民の皆様との協力を得てこのほど設立されました。出来上がった防災計画も自主防災組織の役割が非常に大きく、ワークショップを通

してまとめられた住民アクションプランの課題と対策を、皆さんと一緒に一つ一つ着実に進めていきたいと思います。最後になりましたが、「伝建地区若狭町熊川宿の防災まちづくり計画」の策定に当たり、委員の先生方や関係者の皆様、そして若狭町文化財室の皆様には大変お世話になりました。

伝建地区 若狭町熊川宿の防災まちづくり計画

■目的

住民と行政が協働して防災活動を総合的かつ計画的に実施することにより、熊川宿の価値高い文化財建造物と歴史が育んだ町並みを災害から守るとともに、そこに暮らす住民が安心して住み続けることができ、あわせて来訪する観光客の保護を図ることを目的とします。

■計画の基本方針

1. 熊川宿のまちづくりの実績を活かす。
2. 歴史の蓄積と自然環境の条件を活かす。
3. 住民と行政が手を携えて進める。
4. 計画から実践へ着実に進める。
5. 観光客に配慮し、他地区との連携をめざす。

■計画の主な内容

- ・ 自主防災組織を確立します。
- ・ 避難所建物の整備と避難経路を確立します。
- ・ 建物の耐震性能や防火性能を向上させるための対策を講じます。
- ・ 初期消火設備の整備を進めます。
- ・ 谷川の排水路の整備を進めます。
- ・ 前川の管理体制を確立します。
- ・ 砂防の点検を行います。
- ・ 屋根雪下ろしの協力体制の整備に取り組みます。
- ・ 自動火災通報の仕組みを構築します。
- ・ 観光客への防災情報の提供、避難誘導の方法について検討します。
- ・ 他の伝建地区と防災交流を進め、協力体制を整備します。



防災まちづくり



防災ワークショップ



防災マニュアルと冊子類

平成21年度 若狭熊川宿まちづくり特別委員会

事業計画 (H21.5)

- 5月20日 全国伝建保存地区協議会出席
～21日 (鳥取県倉吉市)
- 5月23日 第1回まちづくり委員会
- 5月下旬 一帯美林街道の整備
- 6月上旬 城跡の整備
- 6月 ファンクラブ支援
- 7月12日 町並み研修 (有松・足助)
- 7月下旬 町並み通信第19号発行
- 9月20日 若狭おもてなし食フェア(熊川会場)協力
～21日 (熊川地区公民館・まちづくり委員会共催)
- 10月17日 熊川いっぶく時代村イベント
ツアーマナー協力
- 10月18日 熊川いっぶく時代村
(熊川いっぶく時代村実行委員会主催)
- 平成22年
1月下旬 町並み通信第20号記念号発行
- 2月 熊川宿まちづくり総集會

<随時>

- ・日本風景街道事業(今年度は7月より実施)
- ・町並み関連の駐車場、前川、道路、神社の清掃と草刈り等
- ・防災まちづくり計画の推進
- ・ホームページ更新
- ・委員会、役員会、部会を開催

平成21年度 日本風景街道

事業計画 (H21.5)

- 1: 町並みの景観保全
大杉前川土砂上げ作業、水鏡橋修繕
- 2: 伝統文化の保存と活用
山車車輪修理、舞台修理記念行事
- 3: 防災まちづくりの推進
観光客の保護に配慮した防災訓練
- 4: まちづくり情報の発信
町並み通信第20号記念号の発行
- 5: 特産品の研究
特産品「熊川葱」の活用研究会
- 6: 観光交流の推進
宿泊施設運営研修、風景面教室など

お泊り処「熊川宿・勘兵衛」の発足

熊川宿おもてなしの会 会長 亀井 浩

熊川宿に來訪する人の感想では、「店が少ない」「宿や休憩場所がない」「特産のお土産がほしい」等の声がよく聞かれます。平成18年末に、もてなしの研修に先進地である愛媛県内子町の石畳の宿へ行きました。この研修に参加した住民が中心になって、「熊川宿おもてなしの会」を立ち上げ、來訪者のためのもてなしや住民との交流の場を工夫することにしました。さしあたり、週一回程度の喫茶サービスを旧逸見勘兵衛家で実施することにしました。そして、ゆつくりと10年ほどかけて他の事業も将来的には展開する予定です。

ところが、昨年の6月に若狭町エコ・グリーンツーリズム推進計画が発表されました。この計画の狙いは、都市住民と農村住民が自然体験や農村体験を通して、交流を図ることです。この計画の中に、熊川宿での町家民泊も勘兵衛家で行うように位置付けられ、観光客の少ない冬季には、宿泊用に改装も行われました。

この宿泊施設の運営を「熊川宿おもてなしの会」でできないか検討してほしいという依頼があり、平成20年7月に総会を開き、おもてなしの会の一事業とすることになりました。

平成21年6月から正式に、観光客を受け入れ始めました。「新聞やテレビで見た」「インターネットで調べた」というお客さんが週一回程度予約を入れてくれていきます。料理、寝具、清掃といった準備は石倉真澄さんを女将として、女性会員が行います。特に、料理は蕎麦、こんにゃく、鯖、山菜など



喫茶コーナー(写真上)とおもてなしスタッフ(写真下)

を使用し、いろいろと工夫をしながら作っています。宿泊されたお客さんには、大変好評です。また、夜間の管理人が必要ですので、これは男性会員がローテーションを組んで宿泊客の安全を確保しています。

宿泊された方には、「熊川宿・勘兵衛友の会」の会員証を発行し、リーダーとして再来訪を期待しています。また、つるの会(手づくりの細工物を製作・販売)との共催で「まちなか工房」を立ち上げ、希望され

る方には、手工芸体験が可能となりました。

まだ発足して一ヶ月余りです。いろんな課題が今後出てくることと思います。その一つ一つを解決して、宿泊客も満足し、お世話した会員もよかったと感じられる活動にしていきたいと考えています。

お泊り処

「熊川宿・勘兵衛」

ごあんない

「宿泊・料理体験」

- ・宿泊体験(一泊) 五、五〇〇円
- ・田舎料理体験(夕食・朝食)

「その他の体験メニュー」
一、五〇〇円

- ・まちなか工房
- (つる細工・木工・手まり作り)
- (陶芸・押し花・ぞうり作り)
- ・野菜栽培・収穫等

※料金は体験メニューにより異なります。

お申込み先(予約制)

TEL 080-6359-0808

短歌で

町並み散歩

山里の堂もつひに人の手と

水槽傾りて言つせになり

通学も見守り隊のつく時代

堂連ひしは昔日の夢

宮崎洋美

熊川宿防災まちづくりシンポジウム

とき…平成21年2月1日(日)
 ところ…熊川児童館(福井県三方上中郡若狭町熊川)
 主催…鯖街道熊川宿まちづくり協議会
 後援…社団法人 近畿建設協会

熊川宿では、重要伝統的建造物群保存地区に選定され12年が経過し、民家の修理や景観整備が着々と進められる一方で、少子高齢化や建物の老朽化といった防災上の不安が生じています。これらの課題に対応し、文化財建造物と歴史が育んだ町並みを災害から守り、住民が安心して住み続けることができ、併せて観光客の保護を図るため、住民と行政が協働による「伝建地区若狭町熊川宿の防災まちづくり計画」が策定されました。この計画の策定報告と参加者が防災まちづくりについて考え、「災害に強いまちづくり」を実現するためシンポジウムが開催されました。

開会にあたり、河合健一会長、千田千代和町長の挨拶がありました。

【第一部】「防災まちづくり計画」の策定報告

策定委員会、防災ワークショップ、住民意識アンケートなどの経過報告がありました。

報告1「防災まちづくり計画」のあらまし



福井宇洋氏
 (福井大学大学院助教)
 ・熊川宿のまちづくりの実績を活かす。

・歴史の蓄積と自然環境の条件を活かす。
 ・住民と行政が手を携えて進める。
 ・計画から実践へと着実に進める。
 ・観光客に配慮し他地区との連携をめざす。

報告2 住民の取組みとしての活動経過報告



岩本実氏(熊川区長)
 ・熊川区自主防災組織の設立準備を開

始した。

・前川の管理方法の明確化を図る。
 ・屋根雪下ろしに取り組む仕組みの構築。

報告3 行政が進める対策について



岡本潔和氏
 (若狭町文化財室)
 ・安全な避難場所の確保。

・耐震性能と防火性能を向上させる仕組みの確立。
 ・使用しやすい消火設備の整備。
 ・砂防の点検と排水路整備の検討。
 ・近隣等に火災を自動通報する設備の整備。

報告4 今回の取組みの特徴



鈴木 有氏
 (富沢工業大学名誉教授・秋田県立大学名誉教授)
 ・火災・地震・積雪・

風雨・斜面崩壊など、総合防災にふさわしい計画を考えている。

・まちづくりの一環として取り組んでいる。

・住民・行政の協働をもとに創った。我が家・自分たち(自助・共助)、行政(公助)、相互の協力関係を確認している。

・非常時の備えを普段から考える。この計画は44項目にもわたり、実施主体・実施時期を確認して、伝建地区として先達の対応になるものと期待される。

休憩

「みんなで非常食を味わおう！」
 炊き込みごはんやわかめごはんなどの非常食を試食しました。

【第二部】語り合い

「伝建地区熊川宿の防災まちづくりをどう進めるか」



をテーマに語り合いが行われました。



河合健一氏
 (若狭町熊川宿まちづくり特別委員会会長)

・盛りだくさんの計画になった。熊川区内に広げたい。
 鈴木 有氏

・住民が主人公になれるかが大切。

宮田勝美氏
 (熊川宿町並み相談委員)

・民家改修工事の際の防災対策についての説明の重要性を感じた。

井上和治氏
 (NPO法人ラビユタ創造研究所理事)

・熊川は、行政も住民もしっかりしている。

岩本 実氏
 自衛消防の活動について

・ポンプ点検、区内夜警、出初式、家庭内警報器取り付け推進などを実施。

・昨年末、ポンプ積載車を買ってもらった。みんなが使えるようにしたい。

・また、先日、区民を対象に、消火器・消火栓の使用訓練を行った。

最後に鈴木有氏が次のようにまとめられシンポジウムを閉会しました。
 ・住民主導で防災まちづくりを進めてほしい。
 ・日々の暮らしの中で楽しんで取り組んでほしい。

平成20年度 日本風景街道事業報告

(平成21年5月)

19年度に引き続き、20年度も日本風景街道の支援を受けることになり、熊川宿のさらなる文化の再興と地域の活性化を目指して、次の事業を計画・実施しました。
20年度は熊川宿が伝建地区の防災計画を策定したこともあって、防災関連の事業が主体となりました。

一、初期消火訓練

実施日…1月25日(日)

主 体…熊川区・若狭熊川宿まち

づくり特別委員会

場 所…上ノ町

観光客が訪れている平日の昼間は比較的高齢者が多いことから、文化財火災防訓練に合わせ、高齢者の住民を対象に消火器を使った初期消火訓練を実施しました。消火のポイントとは火の根元へホウキではくように消火すること。併せて埋設型消火栓と消防ポンプの扱い方を学びました。



二、町並み防災研修

実施日…3月1日(日)

主 体…若狭熊川宿まちづくり特

別委員会

行き先…京都市東山消防署・産寧

坂伝建地区・祇園町南側

地区

歴史的な町並みを災害から守るためなどのような活動や設備を整えていくか、また熊川宿を訪れる観光客の保護を図るため、防災活動に取り組



んでいる地域を視察・研修しました。東山消防署で、「京都市の自主防災組織の取り組み」と、産寧坂伝建地区を含む「清水地域の防災設備」についてお聞きしました。

次に東山消防署員の案内により高台寺公園周辺で消防設備を見学、市民用消火設備を使って放水を体験しました。



午後は弥栄自治会館に移動し、「祇園町南側地区」のまちづくりについてお聞きしました。同地区は、お茶屋の舞妓さんが防災訓練に参加して防災まちづくりを進めていることで注目を集めています。

またこの地域は、京都市歴史的景観保全修景地区となっていて、「祇園町南側地区景観協定」の締結や、

「新規参入規制委員会」の設置、「私設消火栓の設置」など先進的な取り組みを進めておられます。

三、宿場内の美化活動

実施日…3月27日(金)・29日(日)

主 体…熊川区・若狭熊川宿まち

づくり特別委員会

場 所…前川(大杉・上・中・下

ノ町)・西口付近

上ノ町を流れる前川の水量が少なく勢いが衰えていることを受けて、大杉の街道沿いの水路で重機を使ってコンクリート蓋を開け、土砂等を取り除く作業が行われました。

3月29日(日)には、区民総出の奉仕作業が行われ、人力で残りの区間の清掃作業を、また、上・中・下ノ町の街道沿いを流れる前川の清掃を行いました。西口付近には花壇を再整備しました。



四、伝統芸能の後継者の育成

主 体…熊川宿伝統芸能保存会

近年、子ども数が減り、つせん踊りや熊川音頭の継承が難しくなっています。そこで近隣の集落や小学校に呼びか



け、子どもたちが将来、これら伝統芸能保存の担い手になってもらえるよう、熊川宿の伝統芸能踊り方テキストをやさしいイラスト入りで作成しました。

五、消火器収納箱の製作

主 体…熊川宿町並み保存伝統技術

研究会

老朽化した消火器収納箱を町並み景観に配慮したデザインで、よりわかりやすいものに作り直しました。



六、宿泊施設運営研修

主 体…熊川宿おもてなしの会

町のエコグリーンツーリズム推進事業の一環として旧逸見勘兵衛家で行うことになった宿泊施設の運営に向けて、必要な知識や技能を習得



する研修を行いました。また、宿泊施設「熊川宿勘兵衛」や交流体験施設「まちなか工房」の看板を製作しました。

平成21年1月5

1/25
文化財火災防御訓練

厳しい冷え込みの中、若狭消防署上中分署の出動と、上中消防団、熊川自衛消防団、区民が集まり、万が一の火災に備えて訓練に望みました。

2/15
熊川宿まちづくり総集會

岩本実区長が「自主防災も重要。今後の熊川を語り合いたい」と挨拶し、開会しました。

千田千代和町長「熊川の自然の素晴らしさに感動した。区民の熱意、協力を敬意を表します。団結力を持ち続け、町の発展につなげて欲しい」

語り部の中塚政雄氏「熊川の良さを味わってもらえたらと思う」

河合健一会長「町行政の協力に感謝。自然を守り、皆さんと力を合わせ住みたい町にしていきたい」

最後に、松木神社三五〇年祭の山車巡行の様子や、熊川音頭でテレビ出演した時の懐かしいビデオを鑑賞し、若かりし頃の思い出話に花が咲きました。

2/21
作事組全国協議会設立総会（京都市）

作事組とは、町家や古民家など伝統的な建築技術を守り、維持・再生の現場にかかわる工匠の全国組織で、技術の維持と継承、伝統技術と法律の問題など共に取り組むため連携と協働を主とします。熊川宿からは五名が参加して、パネルディスカッション、交流会などで意見を交換してきました。

2/24
暦・引札展（於：道の駅四季彩館）

明治後期から大正時代の暦や引札が展示されました。これは大金商店さんの家屋修理に伴い壁の中から出てきたものを、掛谷岩男さんが譲り受け、一つ一つ修復されたものです。約50点に及ぶ暦や引札は、繊細で色鮮やかな絵が描かれており、かつての街道の繁栄が偲ばれます。来る9月中旬から約一ヶ月間、同所で二回目の展示が行われる予定です。

5/20
~5/21
全国伝建保存地区協議会

白壁土蔵のまち打吹地区の川沿い白壁土蔵群や商家の町並み等、そして酒と醤油のおおる「かおり風景百選」で有名です。古い蔵などを改装して作られた施設では、土産品店や工房等があり、特に若い人の働く姿がみられ、土蔵に響く若い人々の声で活気に溢れていました。

7/5
七夕飾りで西口に活気を

熊川宿西口を活気づけようと、七夕飾りを行いました。活性化部会が中心となって、笹竹数本に折り紙などを飾り付け、道行く観光客や小学生に呼びかけて、短冊に願い事を書いていただきました。来年以降も続けたいと話しています。

あとながき

熊川宿では「防災まちづくり計画」がまとまり、このほど「熊川区自主防災会」が立ち上げられました。住民一人ひとりが防災意識を高めるとともに、住民にとっても訪れる人にとっても安全で安心な熊川宿であってほしいと思います。

熊川宿内のピオトープに今年初めて蛍が乱舞しました。熊川宿はたる生息研究会や熊川小学校の児童たちが丸一年をかけて育ててきた源氏蛍が六月中旬、幻想的な光を放ちながら見事に舞っていて、とても感動しました。

また今年六月からお泊り処「熊川宿勤兵衛」がスタートし、順調に予約が入っているそうです。蛍とあわせて将来、昼夜を通して熊川宿の自然や町並みを満喫していただけるものと思います。

「町並み通信」は次号、節目の第20号を迎えます。平成12年6月の創刊以来、これまで延べ80名の方々に原稿をいただき、ありがとうございました。これからも皆様のご協力をよろしく願います。

編集委員

権現神社
(ごんげんじんじや)

上ノ町の山側にあり、水雨火防の神様を祀る神社。昔、上ノ町では、道の表面に白い石が出るのと村に大災や水害が起きたことがあり、そこで村人が相談してお社を建て、この白い石をお祀りすることになったのが、この神社のいわれであるとされています。